

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書（XⅢ）



2010.3

宮崎県教育委員会

例 言

- 1 本書は文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が実施した「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」の平成21年度の事業概要報告書である。
- 2 発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、県立西都原考古博物館が実施した。
- 3 復元整備工事は、県土整備部都市公園総合事務所に予算を分任して実施した。
- 4 発掘調査地点、復元整備工事の実施地点は下記のとおりである。
202号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3930番地
170号墳：宮崎県西都市大字三宅字丸山5392-1番地
46号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二5670番地
- 5 本書の執筆・編集は、県立西都原考古博物館の学芸普及担当主査 吉本正典が担当した。
- 6 発掘調査で出土した遺物は、同博物館にて保管している。

目 次

第I章 発掘調査及び整備の経緯	1
第1節 既往の整備事業	1
第2節 西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業	1
第II章 202号墳発掘調査	3
第1節 古墳の立地	3
第2節 既往の発掘調査	3
第3節 調査の概要	3
第III章 整備工事	7
第1節 170号墳	7
第2節 46号墳	8

第1章 発掘調査及び整備の経緯

第1節 既往の整備事業

特別史跡西都原古墳群は、大正元年から同6年にかけて、我が国初の学術発掘調査が実施されたことや、昭和41年から同43年まで、やはり第1号の『風土記の丘』整備事業が行われたことで知られている。以後、史跡公園としての環境維持や古墳の保護が図られてきた。

その状況を踏まえた上で、宮崎県教育委員会では「史跡の保護」に加えて「活用」という観点から平成5年度・6年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、6年度末に『西都原古墳群保存整備基本計画』をまとめ、それに基づき平成7年度より新たな整備事業に着手している。

平成7年度から同14年度にかけては文化庁の補助事業である「大規模遺跡総合整備事業」（平成9年度より「地方拠点史跡等総合整備事業」）を活用し、発掘調査の成果を基にした古墳の復元整備工事や環境整備、見学施設の建設、土地公有化などが行われた。

その後、平成15年度から19年度には「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」の事業名で、46号墳の発掘調査や111号墳の墳丘復元工事を実施した。

さらに平成20年度からは5か年計画で「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」により、通称「第1古墳群」を中心とする一帯の保護活用を図ることとなった。

第2節 西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業

宮崎県教育委員会では、平成19年度に前述の『西都原古墳群保存整備基本計画』を上位計画と位置づけた上で、新たな整備実施計画を策定し、平成20年度より標記事業に着手している。

当該事業は、広大な面積を擁する西都原古墳群の中でも各時期の前方後円墳が集中し、大正時代の発掘調査も多く実施されている「第1古墳群」を主たる対象と定め、集中的に整備事業を行っていくものである。

本年度は、昨年度からの継続で202号墳（「姫塚」）の発掘調査を実施した。この調査については引き続き来年度も実施する予定である。

また昨年度に公有化を行った170号墳周辺と、昨年度までで当面の発掘調査を終えた46号墳の復元工事の実施設計を行い、2月より工事に着手した。46号墳については3段の墳丘の復元と周溝の表示を、170号墳周辺については周溝を顕在化させるとともに、男狭穂塚・女狭穂塚を含む丸山支群全体と、169号・170号墳の説明板を設置し、群全体の見学ポイントとして位置づけた。46号墳の復元整備工事は次年度も実施する。



第1図 西都原古墳群全図及び発掘調査・復元整備古墳の位置

第Ⅱ章 202号墳発掘調査

第1節 古墳の立地

202号墳（通称「姫塚」）は西都原台地東南部のグループである通称「第1古墳群」の西端に位置する前方後円墳である。墳丘の西と東に谷地形が入っており、特に西側の谷は深く台地を刻む。その谷頭付近には酒元ノ上横穴群が分布している。さらに北方約400mの台地上には横穴式石室を有する鬼の窟古墳がある。

第2節 既往の発掘調査

当墳は既に大正時代に発掘調査が行われている。大正元年（1912）の第一次調査において、後円部と前方部の墳頂、及びくびれ部付近の掘り下げが行われた。調査者は黒板勝美・今西龍・濱田耕作などが名を連ねている。後円部墳頂から直刀、刀子、鉄鏃、玉類や須恵器杯や提瓶、壺が、前方部から直刀、刀子、鉄鏃、須恵器杯が出土しているが、埋葬主体部の構造に関する詳細は不明である。また、出土遺物は現在、所在がわからない。

それから100年弱が経過した昨年度、平成の整備事業に伴う確認発掘調査を行い、現在も継続しているところである。

第3節 調査概要

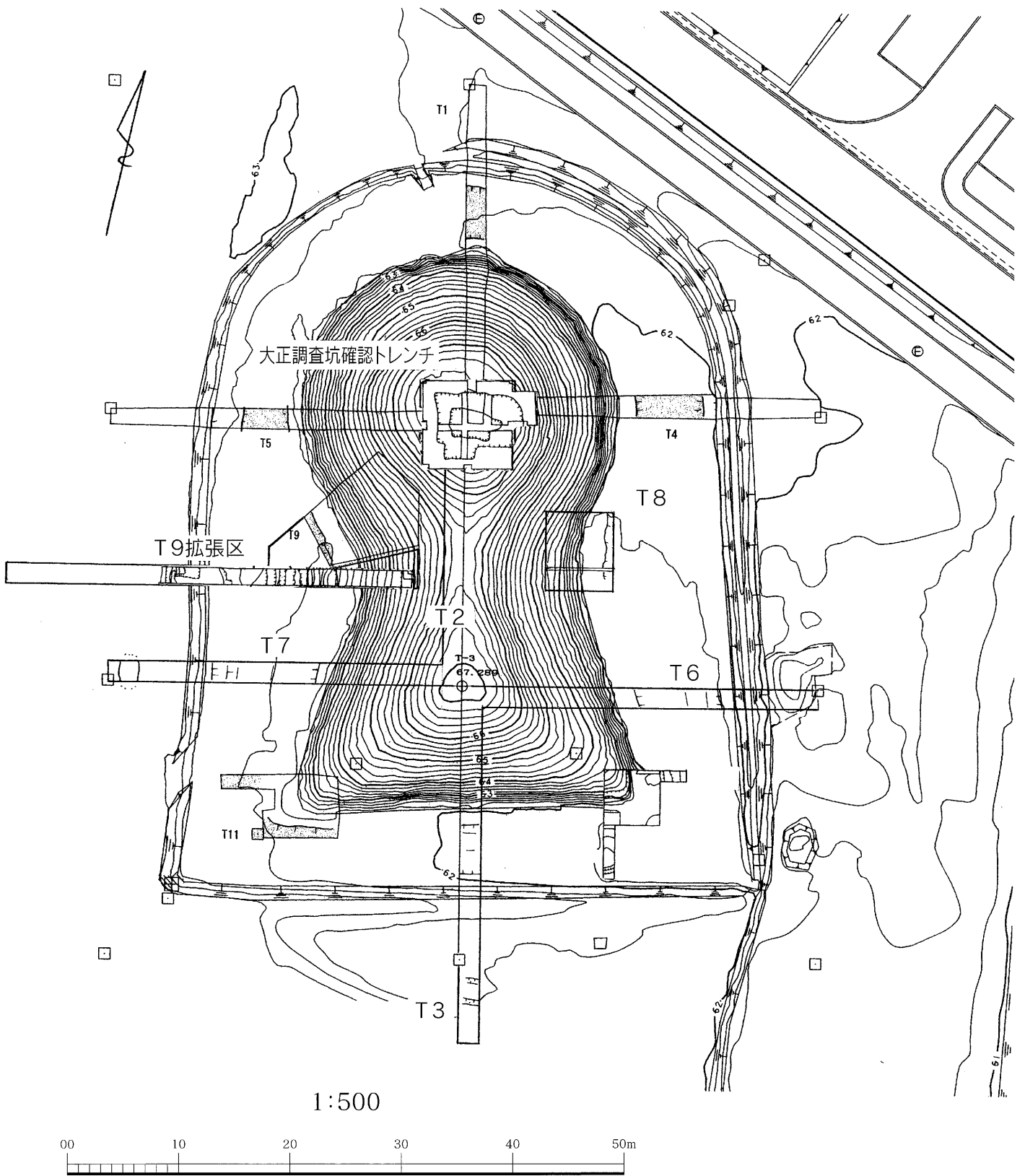
昨年度の調査開始に際して、後円部の任意の中心点から前方部の中心を通る主軸を定めた。本年度の調査においてもその軸線を踏襲し、それに直交するくびれ部のトレンチ（T8・T9）、軸線上の前方部前面～周溝・周堤帯に設定したトレンチ（T3）、軸線に直交する前方部のトレンチ（T6・T7）、東隅角部のトレンチ（T10）を設定し、掘り下げを行った。また後円部墳丘平坦面の調査区画を拡張し、大正時代の調査坑を確認し、再掘削を行った。

調査は平成21年8月15日から実施し、同22年3月末に埋め戻しまで完了している。その結果、昨年度のトレンチでの状況と同じく、古墳の周囲には現状（「風土記の丘」整備後）より深く、急傾斜をなして立ち上がる周溝が巡ることが判明した。また現状の周堤帯の付近で地山が立ち上がる状況が認められるが、一方で整備工事の重機の掘削痕も残されており、オリジナルなものか否か、判断できない。T3の周堤帯では道路状の硬化面が認められた。現在、その構築時期の検討を行っている。

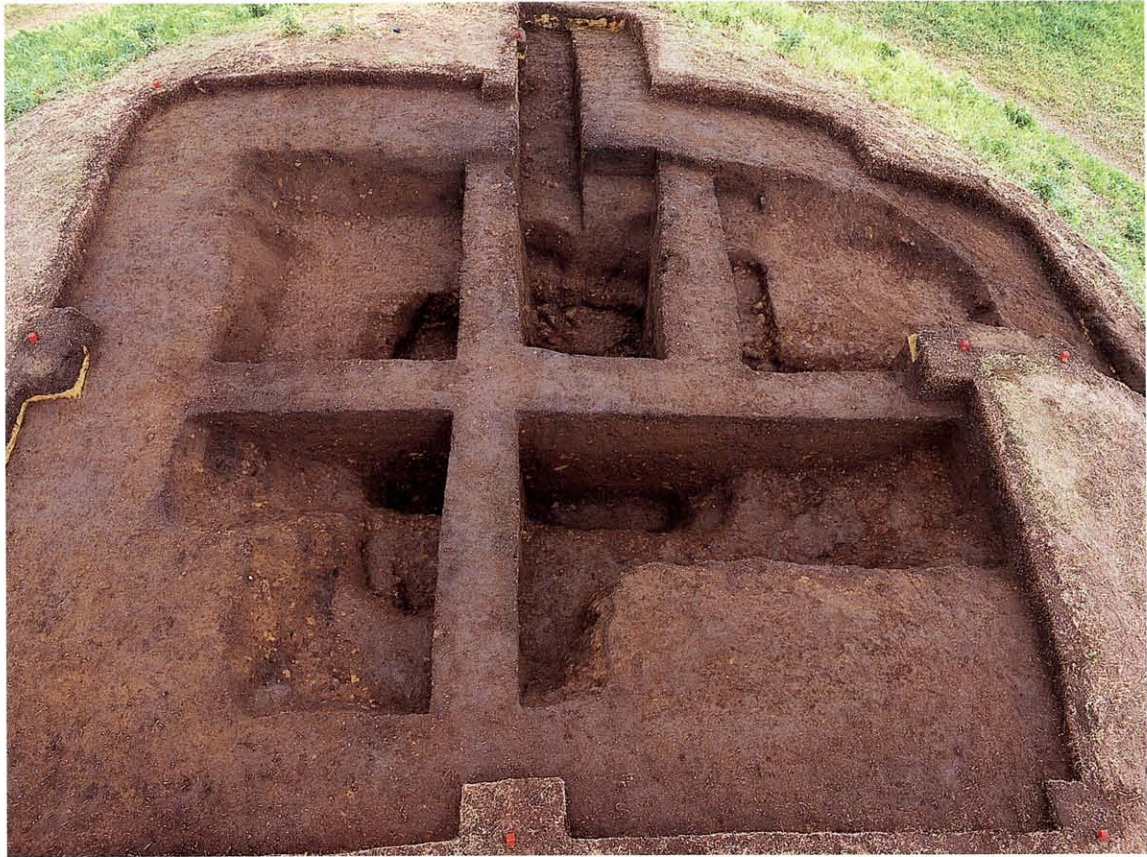
後円部墳頂平坦部の調査区では、大正時代の調査坑掘り方の全容が明らかとなった。昨年の一部を検出した埋葬主体（木棺直葬）について、引き続き、確認を行っていく予定である。

また、大正時代の調査坑の埋め戻し土について、ふるいによる微細遺物の確認作業を行っている。この作業は土量が多いため未だ途中であるがこれまでにガラス小玉18点、切小玉5点と丹塗り土師器片が得られた。

当墳の調査については次年度も継続予定となっている。



第2図 202号墳 墳丘とトレンチ配置



大正時代の掘り方検出状況



大正時代の埋め戻し土の一部掘り下げ状況



T3掘り下げ状況



T9拡張区掘り下げ状況



T 6 掘り下げ状況



T 7 掘り下げ状況

第三章 整備工事

第1節 170号墳

170号墳は女狭穂塚の南西に位置する。低平な墳丘が特徴的な円墳であり、一般的には女狭穂塚の陪塚とされる古墳である。大正元年の第1次調査の対象となり、鉄刀や家形埴輪が出土したと記録されている。平成15年度からの発掘調査の結果、周溝が巡り、三段に築かれていることが判明した。また、子持家形埴輪と船形埴輪が当墳から出土したことが明確となった。

これまで、当墳は墳丘部分のみが公有化されていたが、昨年度に周辺一帯の買い上げ事業を実施した。この結果、男狭穂塚・女狭穂塚陵墓参考地や169号墳など丸山丘陵に立地する古墳群を望むことができ、それらの情報を提供するスペースとしての活用が可能となった。

整備工事は2月より着手した。周溝を顕在化させ、芝貼りを行った。また古墳へのアプローチ部分には、群全体の解説や、最新の調査情報を盛り込んだ説明板を設置した。なお整備工事に伴う掘削中に、当該工事地の入口（西側）にアカホヤ層の地山面があらわれ、急遽、確認・精査を行った。結果として遺構等は検出されなかった。



整備工事状況

第2節 46号墳

46号墳は「第1古墳群」のほぼ中央部に立地する前方後円墳である。墳長は約80mで、男狭穂塚・女狭穂塚という巨大な中期的古墳に繋がる時間的位置を有する古墳である。3段築成で、浅く立ち上がりの明瞭でない周溝を有する。また葺石の根石が比較的よく残っている。

平成11年度から発掘調査を開始し、平成19年度に報告書を刊行した。昨年度に追加調査を実施し、前方部と後円部の接合部の状況や、47号墳と番号の振られた周溝内に位置する小墳丘の確認を行った。

その結果を踏まえて、本年度に実施設計を行い、整備工事に着手することとなった。これまでの発掘調査でも、なお墳丘や周溝の全容は解明されていないため、3段築成の墳丘を表現すること、周溝の位置を表示すること、説明板を設置することなど、比較的軽易な整備工事にとどめることとなった。

工事は170号同様、2月に着手しており、次年度も継続する予定である。



整備工事状況

報告書抄録

フリガナ	トクベツシセキ サイトバルコフングン ハックツチョウサ・ホゾンセイビホウコクシヨ				
書名	特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備報告書				
巻次	—				
シリーズ名	—				
シリーズ番号	XⅢ				
編著者名	吉本正典				
発行機関	宮崎県教育委員会（県立西都原考古博物館）				
所在地	〒880-0805 宮崎市橋通東1丁目9番10号 (〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670番)				
発行年月日	2010年（平成22年）3月31日				
所収遺跡名	所在地	市町村コード	調査期間	調査原因	調査面積
西都原古墳群 202号墳	宮崎県西都市大字 三宅字原口二3930	45208	2009.8.14 ） 2010.3.31	史跡整備関連	240m ²
		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
		古墳	古墳	周溝	土師器・ ガラス小玉

※46号墳，170号墳については，整備工事のみであるため記載しない。

特別史跡

西 都 原 古 墳 群

発掘調査・保存整備概要報告書 (XⅢ)

2010年3月

発 行 宮崎県教育委員会
編 集 宮崎県立西都原考古博物館
印 刷 北一株式会社
